

看護師の はなし キイテミタ

厚生病院の看護職はどんな感じ？
気になることをいろいろキイテミタ！

さまざまな思いを抱いて 看護師を目指す

管 将来自分が何になりたいかと考えた時に、まず前提にあったのが人と関わる仕事に就きたいという思いでした。そこからさまざまな本を読むうちに、1番興味を持ったのが看護師でした。

A 私は母が看護師でしたので、身近な職業でした。幼い頃は夜勤で留守にすることもあり寂しい思いもしましたが、祖父母の入院の際に病状を把握している姿を見てかっこいいと思い、私も目指しました。

M 私も母が看護師だったことが大きいです。母は療養デザイナーで働いていて、私も小さい頃から一緒に職場に行っていました。そこにはALSの方や人工呼吸器を着けた方も通っていましたが、ご自身で言葉を発することができなくなった方たちのことを知ろうとする母の姿が印象的で、そこから看護師の仕事が素敵だと思うようになりました。高校卒業後は大学に進学しましたが、そこからさらに看護学校に入り直して看護資格を取得しました。

こ 私は昔から両親に専門資格の取得を勧められていたことが影響していると思います。姉も看護師を目指していましたし、高校に看護クラスがあって周りの友人たちも看護師を志していましたので、じゃあみんなと一緒に頑張ろう！と、私もその道に進みました。

科 僕は高校卒業後に東京に出て、25歳までサラリーマンをしていました。北海道に戻りたいと思っていましたが、その頃は就職氷河期で働き口がなくて、手に職を付けるために資格を取ろうと思ったのと、看護師の従姉に勧められたのもあり、受験勉強をして看護学校に入学しました。

管 当時は男性看護師が少なかったので、そこで看護師を選んでくれる人というのはありがたいというか、貴重だったと思います。

科 看護学校の同期の男性は僕を含めて2人でしたが、当時はそれでも多い方でしたね。今は1学年に5~6人はいると思います。全国平均でいえば昔は5%でしたが、今は8%と少しずつ増えています。僕の同期は今、別の病院で訪問看護をしていますよ。現場では、女性の患者さんに対してケアを行



優しく見守る
管 管理科長さん



頼れるセンパイ
こ ごねんめさん

雑談シテミタ

今回の対談メンバー

帯広厚生病院の5名



ムードメーカー
科 病棟科長さん



しっかり者
A 新人Aさん



笑顔いっぱい
M 新人Mさん

う場合は、毎回ご本人に僕がしてもいいかお伺いします。正直、高い確率で断られますが、それならそれでいいんです。ケアは女性看護師に任せて、僕は自分が出来ることをすればいいかなと思っています。

充実した実習経験が 診療科選びの決め手に

こ 私たちが現在勤務しているのは、脳神経内科と眼科の混合病棟です。看護師として働くにあたり、学生の多くは診療科選びに迷うと思いますが、私は看護学校の実習の際にスタッフの方が優しく働きやすそうな環境だなと思ったので、この科を選びました。実習先で経験したことは、診療科を選ぶ際の大きな基準になると思いますよ。

A 私は自分が育ったこの地域の環境がとても気に入っています。小学校から高校まで運動部に所属していましたが、色んな方の助けがあって好きなことをさせてもらいましたので、地域の人に恩返しをしたいと思い、帯広厚生病院を希望しました。学生時代はコロナ禍で、なかなか実習に行けませんでした。3回のうち2回行った脳神経内科で、

学生指導の方がしっかりと寄り添ってサポートしてくださいましたし、病棟スタッフ全員で学生を見てくださっている感じが心強くて、絶対にこの病棟がいいなと思いました。

M 私も、診療科の特徴については学校の先生から色々な話を聞いたり資料を調べましたが、1番影響を受けたのはやはり実習です。実際に現場に立つことで、自分がどういう看護をしたいかを知ることができました。脳神経内科での実習で、移動の援助の際に自分が提案したことを指導者が褒めてくださって。それがとても嬉しくて、自分で考えてやってみて良かったなと思いました。指導者だけでなく周りの看護師やスタッフの方々も「きちんと学生に教えよう」という姿勢で接してくださいましたので、短い期間のなかでもたくさん学ぶことができました。今は新しいことばかりで毎日ついていくのが大変ですが、充実しています。



患者さんの病状に合わせて 柔軟かつ適した看護を実施

こ 脳神経内科には、体は動かないものの頭はしっかりしているという患者さんが多くいらっしゃいます。そうした状況でコミュニケーションを取った時に感謝をされると嬉しいですし、脳梗塞の患者さんがリハビリで少しずつ動けるようになっていたり、頑張っていることを共有できるとやりがい

を感じます。コロナが明け、4月末からは面会が可能になりましたが、コロナ禍ではご家族と患者さんが直接お会いできませんでしたが、ご家族にはお荷物の受け渡しの際に患者さんの様子を細かく報告し、患者さんにはご家族に会えない分しっかりと寄り添うように心掛け、希望することをできるだけ叶えるよう一緒に取り組んでいました。

科 大切なのは、患者さんとご家族の関係性が切れないようにすることです。コロナ禍では原則面会不可でしたが、手術や大きな検査、医師との面談、亡くなりそうな時などは特例として、10分以内の面会は可能にするという院内ルールがありましたので、患者さんの状態に合わせて、適切に面会を許可していました。例えば、僕が別の病棟にいた時のことですが、脳梗塞で運ばれて来た患者さんで、高度の言語障害と強い麻痺が出たんです。その患者さんは、僕たちが声をかけるのをご家族が声掛けをするのとは明らかに反応が異なったため、ご家族の声掛けが治療に必要なだと判断し、医師や上司に相談して毎日の面会を許可していただきました。その甲斐あってか無事に回復し、元気になった姿が見られたのはとても嬉しかったですね。

こ コロナ禍の初期段階では面会も外泊もダメという期間があり、看取りも2人までと制限もありました。

管 亡くなる直前に「もう少し早く連絡が欲しかった」など、ご家族から厳しいお言葉をいただくこともありましたが、当然現場スタッフも同じ思いでしたので、辛く大変な時間だったと思います。ですからようやく面会が可能になって本当に良かったですね。

科 2018年に今の新病院に建替え移転してからは、IDカードで入室管理を行っていますので、セキュリティーはしっかりしています。ご家族もカードがなくて面会できませんし、知人・友人がふらっとお見舞いに来ても入れませんので、若いスタッフたちは誰でも気軽に面会をしていた頃を

知らないでしょうね。

十勝の人口36万人の 健康や命を支える

管 私たちが目指すのは、他の地域に行かなくては治療ができないというのではなく、十勝の人たちの治療は最後まで当院が見て完結するということです。当院は施設も新しいですし、基幹病院として設備も充実しています。ハイブリッド手術室や検査室もありますし、手術支援ロボット「ダヴィンチ」も導入しています。

科 他の地域と圧倒的に違うのは、十勝には当院しか三次救急指定病院がないということです。三次救急指定病院というのは、今すぐ救急車で運んで治療しなくては亡くなる可能性のある重症・重篤患者を受け入れる救急医療を提供している、いわば「最後の砦」です。ここに暮らす人口36万人を支えるという重要な役割を担っていて、そのための医療資源は揃っています。僕が以前勤めていた集中治療室は救命救急センターと同じ部署にあり、夜間救急に対応するために多くのスタッフが必要でしたので、必然的に夜勤回数も多かったですね。ちなみに、当時のうちの子どもの印象としては、「パパはいつもいなかった」だそうです(笑)。

管 新人Aさんのお母さんもそんな感じでしたか？

A 母は私が学校から帰る時間にはもう出勤していましたので、うちでは交換ノートを書いて、その日あったことなどを報告していました。

こ それは素敵ですね。交換日記みたいな感じで、会えなくてもお互いのことが分かるのはいいですね。

科 今の話を聞いて、お母さんはどんな思いだったのかと。親の気持ちに立ってジーンときています(笑)。

常に患者さんの立場や気持ちに寄り添う

管 新人Aさんと新人Mさんは、これから夜勤も始まりますね。

M はい。でもまだどんな感じが想像ができません。今はとにかく覚えることが多いのですが、チームで働くなかで、自分が見たことを先輩にしっかり報告できるように心掛けています。患者さんがどこに帰るのか、施設であれば施設の人と連携し、ご自宅であれば誰が診てどういうサービスを利用するのかによって関わり方も変わりますので、その方向性を見失わないようにしています。

A 私もまだ分からないことが多くて時間に追われているなと感じますが、そのなかでも患者さんの表情をしっかり見て、訴えや異変を見逃さないように気を付けています。今は知識も足りませんので、フォローして下さる先輩に相談しながら、患者さんにとって何が必要なのかを考えるようにしています。

管 2人ともすごいですね! 看護師になったばかりでそういう意識で取り組んでいるなんて素晴らしい。なんか嬉しいです。

こ 本当にしっかりしていて頼もしいです。毎年50~60人ぐらい新人看護師が入って各病棟に2~5人配属されますが、3~4年目の先輩看護師がプリセプターとして新人看護師に指導します。私はそうした先輩を指導する立場ですが、自分が新人だった頃は、何が分からないか分からないことも多かったですね。そんな時に先輩が「これ分かる?分らなかつたら一緒にやろう」と声掛けしてくださったのがとても嬉し

かったですし、自分の身にもなりました。それに倣って、自分も後輩たちに1つひとつ細かく声掛けをするようにしています。

科 ごねんめさんは後輩指導に定評があるんですよ。実習で来ている看護学校から卒業講演に来て欲しいと声がかかるくらい素晴らしい看護師で、後輩指導者として適任なんです。

管 私は看護管理科長としてスタッフの研修の企画や部会の運営に携わっていますので、直接現場に行くことはありませんが、科長たちから報告は受けています。一番の願いは、患者さんの立場でしっかり寄り添えるスタッフが育ってくることですね。技術は経験を積めば育ちますが、いかに患者さんに寄り添って考えられるかは、看護師1人ひとりの心構えによると思います。そういう看護師が患者さんやご家族からも求められていると思いますし、その姿勢によって病院全体の看護の質も上がっていくと思います。



一般病棟はスタッフに声がかけやすい環境です。

科 僕も同感です。新人の頃は注射がうまく打てない、採血ができない、患者さんの情報の聞き取りができないといった技術的な悩みを抱くことが多いですが、1番大切なのは心構えで、患者さんが何に困っているかといった気持ちに寄り添うことです。

管 同じ気持ちで良かったです(笑)。現場の科長たちがそう思って接してくれているのであれば、看護師もきちんと育ってくれますので、安心しました。

1つのチームとして質の高い看護を提供

管 看護師というのは本当にいい仕事で、その面白さは働いてから分かると思います。もちろん大変さもあって、それも経験しなくては実感できませんが、トータルで見てもいい仕事だと思います。「ドラマに影響を受けた」「就職に困らない」など動機は何でもいいと思います。この道を選んできた人たちのためにも、私たちは働くなかでやりがいを見出せるような職場づくりをしていかなければいけないと思っています。みんなで一緒にこの人の看護をしているんだという意識がやりがいに繋がったり、看護師を続けるモチベーションになると思いますので、私たちのサポートに加え、現場スタッフ全員でそういう職場を作っていって欲しいです。

科 今は産婦人科以外、どこの棟にも男性看護師はいます。自分で言うのもなんですが、僕も含めて女性的な気遣いができる人が多いと思いますよ(笑)。

こ 確かに穏やかな人が多いですね。そういう人がいると、忙しい時に自分が焦っていたなと気付かされて、一旦立ち止まることができるので助かります。

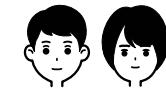
管 女性ばかりの中に男性がいると職場が和みますよね。昔と比べて男性看護師はもう珍しくありませんし、これからもどんどん増えていってほしいです。1つのチームとして、仲間として、ぜひ一緒に働きましょう。

質問シテミタ

帯広厚生病院の場合

保健師さん・看護師さん・准看護師さんは何人いるの?

703人
(非常勤:93人)



※4/1時点の有資格者人数

高度急性期・急性期病院として、地域の医療機関等と連携し、十勝における地域完結型医療の貢献に努めています。また、認定看護師の講義があり、充実した学びが得られるほか、所属部署では、困りごとなどを日々振り返り、相談しやすい環境です。

男女の人数は?

87人
616人



※4/1時点の人数

男性看護師も少しずつ増えてきており、大いに活躍しています。

平均年齢は何歳?

37.5歳



※4/1時点の年齢

新人だけではなく、先輩になってからも教育体制は充実しており、科長・係長の指導のもと、お互いに助け合いながら安心安全な看護を提供できるよう努めています。

休暇はどのくらいありますか?

年間約**120日**

そのほか有給休暇もあります。リフレッシュを目的とし、「年次有給休暇10日以上取得」を推進しております。

〈年次有給休暇〉
採用時:10日付与
勤続6ヶ月通過後:5日付与
勤続1~3年:20日付与
勤続3年以上:25日付与

子育てしながらの支援制度はありますか?

育児と仕事の両立を目指し、子育てサポートをしています。産休・育休・育児勤務(時短)の取りやすい環境を整備し、パパ・ママナースを支援しています。

育休取得率 **男性の育休者も増えています**

女性100% **男性76.9%**

育児休職:1歳~最大2歳まで取得可能(条件により)
育児勤務:3歳まで

福利厚生も充実しています!



帯広厚生病院で

私たちと一緒に働きませんか?

JA北海道厚生連は看護師・助産師を募集しています。看護の楽しさ・魅力を実感しながら、働くことができます。

勤務地や福利厚生などの情報を見られます



看護師採用サイトはこちら

看護職の資格取得予定の学生の方へ



奨学金制度の詳細はこちら